

ラオス・ベトナム海外研修実施ご報告

2009年10月28日

団長 東洋システム 飯田 哲郎

この度たちかわ IT 交流会ではこれまで培ったベトナム・ラオス両国の IT 教育機関との交流パイプの維持・拡大をテーマとした海外研修を実施しましたので概要を以下ご報告いたします。

1. 実施日：2009年10月17日（土）～10月22日（木）
2. 研修先：ベトナム国ハノイ市－ハノイ工科大学、BIP SYSTEMS Vietnam  
ラオス国ビエンチャン市－教育省、ラオス国立大学、Lao Telecom、首相府
3. 参加者：団長 東洋システム(株) 飯田 哲郎、日本ヴェルダシステム(株) 田中 清次郎  
(株)デンサン 田中 長宜、交通システム電機(株) 若林 勝司  
スルーインターナショナルサービス(株) 馬場 吾一、  
日本ソフトウェア(株) 藤沢 康裕
4. ご報告：ベトナム国、ハノイ市：10月17日～19日
  - 4-1 IT 技術者育成プロジェクト責任者と情報交換（10月19日）  
面談者：プロジェクト責任者（立命館大学総長・理事長室部長）郷端清人様  
HUT プロジェクト事務局 勝又美穂子様他1名

ハノイ工科大学内に設置され、IT 教育を推進しているプロジェクト責任者からプロジェクトの経緯、目的、などについて概略説明を受けた。

このプロジェクトは『HEDSP1』（Higher Education Development Support Program on ICT）と呼ばれる教育プログラムで JICA の技術協力により強力な体制で推進されている。

HEDSP1 プログラムでは ITSS（情報処理技術者スキル標準）の普及と IT 人材の育成を図るとともに、5年間の教育を受けた卒業生が日系企業などに就職し、日本語を解するブリッジ SE になることを目指している。

- 4-2 IT 技術者教育現場責任者と情報交換（10月19日）  
面談者：ハノイ工科大学工学部 Thang 教授、Anh 助教授

面談者は4-1項 HUT プロジェクトを実際に活動展開している方々で2006年9月から教育をスタートし現在第一期生は3年生となり 20名は日本に留学し残り100名は日本のカリキュラム・教材に基づき授業を受けている。IT 技術教育と同時に日本語教育も行っており、日本語検定試験の2級以上を目指している。現在一期生から27名の2級合格者を出している。日本企業に対する学生達の評価としては、給料は中程度であるが教育が優れているということであった。

- 4-3 日本からの進出企業による現地 IT 事情（10月19日）  
面談者：BIP SYSTEMS Vietnam Co.,Ltd 石田 直也会長、中西 浩一社長

日本の親企業であるビップシステムズ(株)の海外オフショア拠点として活動しておりグローバルソフトウェア開発、SE サービスを目指した IT 企業として事業展開をしている。現状はソフトウェア開発の下流工程を担当し技術力を強化している。

日本と異なる環境下における現地企業として種々の問題を解決しながらビジネス展開を行っている。

現地企業としての総合的な評価としては治安が良く政治的なリスクが低く、事業としては長期的な展望に立って活動する覚悟が必要とのご感想を頂いた。

5. ご報告：ラオス国、ビエンチャン市：10月19日～21日
  - 5-1 ラオス国教育大臣を表敬訪問（10月21日）  
面談者：教育大臣 Prof,Dr.Somkot、教育省計画局長 Dr.Bounpanh

ラオス国における IT を含めた教育の最高責任者を表敬訪問した。  
大臣の超多忙なスケジュールの中でたちかわ IT 交流会海外研修者のために時間を割いて頂いた価値は大きなものがある。  
たちかわ IT 交流会の活動、海外研修の今までの経緯、今後の展望、期待などを飯田会長が説明し理解を得られた。  
大臣からラオス人教育に対するより一層の支援、指導を要請された。

#### 5-2 ラオス国立大学を訪問（10月21日）

面談者：JICA 専門員 井出 博之様、JICA 調整員 川口 雄嗣様  
LAOS 国立大学工学部長 Dr. Bouaring、IT 学科長 Mr. Sophone、  
LJTTC 所長 Mr. Khamla

JICA 専門員の井出様から『ラオス国立大学 IT サービス産業人材育成プロジェクト』の活動状況を説明を受けた。

このプロジェクトはラオス国における IT サービス産業の振興という高い目標を掲げて活動している。このためには IT サービス市場の求める人材を育成が重要という観点から人材育成を推進している。

2008年12月から五カ年のプロジェクトで総予算3億8千万円という大規模なものである。

主な活動単位としては大学卒業生向け1年間 IT コースの設立、学内会社の設立、産学官連携 Study Session の実施など多岐に渡っている。このプロジェクトは当然のことながら日本人の思考によるプロジェクト活動であり、ラオス人 IT 技術者がこれに応えるための膨大な努力が必要であり、実行できるかという点がポイントと思われる。

#### 5-3 Lao Telecom を訪問（10月21日）

面談者：副社長 Mr.Chanthavone 様、

Lao Telecom における IT 投資戦略について説明を受けた。ラオスの ICT 環境は ASEAN 諸国と同様非常にレベルが低く Lao Telecom 内における IT インフラも含めたソリューション技術力が不足しているため今後の多様なシステムについて提案を受けたいとの有難い話を頂いた。同社で必要なものとして考えているのは勘定系システム、経理システム、ワンストップシステム、POS システムなどの導入を考えているとのことであった。

#### 5-4 ラオス国首相府を訪問（10月21日）

面談者：国内科学技術統括副責任者 Mr.HOUMPHANH 様

今回訪問したセクションはラオス国における IT インフラの総元締めということで、Mr.HOUMPHANH は前職が Lao Telecom の社長ということもありインフラ、IT ビジネス両面にわたり熟知している方で、ラオス国における IT 戦略の最高責任者とも言える方である。短時間ではあったが、たちかわ IT 交流会に対して『ソフトパーク』構想についての助言を受けた。

## 6. 所感：

たちかわ IT 交流会の海外研修は今年で三年目であり年毎に拡大し成長していることを強く実感する。特にこの三年間 IT をテーマとして連続してベトナム国、ラオス国を訪問し交流が芽生え蓄に発展してきた。一年目にはラオス国立大学と技術情報の交流に関する協議書を取り交わし、二年目にはハノイ工科大学にたちかわ IT 交流会の親書を渡し将来の交流を誓った。

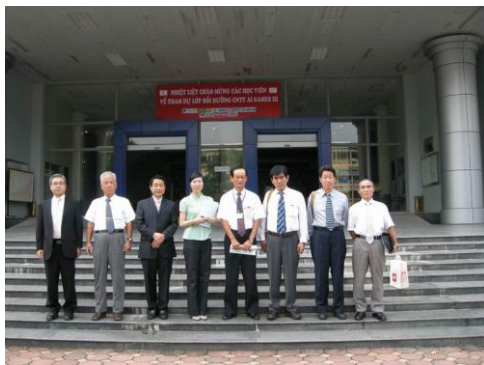
今回はラオス国における教育機関の総帥にたちかわ IT 交流会の存在を示すことができたことは研修参加者一同胸を張って自負できるものと思う。

また、今回の研修でベトナムとハノイの IT 企業や関係者達との話の中でたちかわ IT 交流会現地連絡窓口の支部を設立することが出来た。これは今後今までの活動がビジネスに発展して行くことが想定されるための布石といえるものである。ハノイ連絡窓口の支部、ビエンチャン連絡窓口の支部と共に両国の IT 社会発展のためにさらに努力を傾注したい。

以上

写真で紹介

ハノイ工科大学 HUT プロジェクトメンバーと



ハノイ工科大学タン教授と



ハノイ工科大学タン教授との交流風景



ラオス教育大臣を表敬訪問



ラオス国教育大臣と



ラオス国立大学幹部と



Lao Telecom 副社長と



首相府国内科学技術統括副責任者と



BIP SYSTEMS Co.,LTD での交流



以上